

監修の序

今後少なくとも数十年間、わが国の高齢化はさらに進行する。世界保健機関は平均寿命とは別に健康寿命という概念を提唱しているが、すでに世界一であるわが国の平均寿命の伸びは今後せいぜい4～5歳程度と見積もられているなか、健康寿命の延伸が最重要視されている。健康寿命を短縮する因子、すなわち要介護となる原因として、関節疾患や骨折など運動器疾患は約3割を占める重要なものである。運動器障害による要介護状態ないしは要介護リスクの高い状態は、ロコモティブシンドロームと称されるようになったが、予備軍も含めれば現時点で日本の総人口の約3分の1以上が該当すると見積もられている。“ロコモ”は、症候群として運動器全体を診ることの必要性を改めて示す用語でもある。

本書「整形外科リハビリテーション」では、健康寿命に直結する運動器疾患はもちろんのこと、スポーツ障害を含む四肢の外傷や、頸部痛・腰痛など誰もが一度は経験するような症状の原因となる各種疾患まで取り上げ、結果として日常遭遇する運動器疾患の9割近くは網羅したと思われる。実際のリハビリテーション手技は元より、病態把握や診断・治療において重要な点についても多くの図表やカラー写真が用いられた。これは視覚的に非常に理解しやすく、整形外科リハビリテーションの初学者にとって特に有用と思う。その一方で、各項目の前半に設けてある「知識の整理」では、整形外科における最新の知見も含め述べていただいた。さらに詳細に知りたい読者は、引用文献も大いに参考にしていただきたい。疾患についての知識や文献からの情報を実際の臨床でどのように生かすべきか、序章の「整形外科リハビリテーションにおける評価・治療のポイント」で両編者に改めて示していただいたことも、本書の特色となっていると思う。

本書が、日常の運動器疾患リハビリテーション診療の一助となり、多くの運動器疾患患者さんの健康寿命延伸、クオリティ・オブ・ライフの向上につながることを期待する。

2012年5月

神野哲也